



聖霊降臨の主日 (ヨハネ 15:26-27;16:12-15)

聖霊来てくださいと絶えず願うなら、私たちは聖霊の神殿となる

「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」(16・13) 聖霊降臨の主日を迎えました。イエスは聖霊のことを「真理の霊」と紹介してくださいました。聖書と典礼6頁にも、「真理であるイエスのことを弟子たちに現し、悟らせる霊、という意味」と説明されています。私たちも真理の霊である聖霊を身近に感じ、照らしと導きを願いましょう。

過ぎた一週間は聖霊の働きを身近に感じました。私の場合は「弁護士」あるいは「助け主」という印象の働き方でした。2つ紹介します。1つは、ユニットバスのお手洗いに座っていた時です。出入りする扉の縁の鍵穴に、10cm くらいのムカデがいたのです。目と鼻の先です。

私は飛び上がりそうになりましたが、自分を落ち着かせてトイレトペーパーを丸めて握り、はたいて床に落とし、外に追い出しました。知らずにムカデに噛みつかれていたなら、アナフィラキシーか何か分かりませんが、アナフロシキショックでミサが出来なくて、皆さんに迷惑をかけるどころでした。

もう一つは、長崎教区のホームページです。毎週「主日の福音」という項目を中田神父が更新しているのですが、ホームページの安全性が危険にさらされているのではないかと、教区広報委員会にお知らせしました。連絡を受けた委員から、「早急に検討します」と連絡が来ました。今になって考えれば、教区ホームページがサイバー攻撃を受けてアナフロシキショックで気絶していてもおかしくない状態でした。

2つの事件、共に「弁護士」「助け主」と言える聖霊の働きで、私個人と、長崎教区の危機を脱することが出来たのではないかと考えております。中田神父にとっては、聖霊の働き、導きは日常の一コマです。これは神がそばにいてくださることの、明白なしるしだと思っています。

ただ、信者の皆さんにとっては聖霊の働きは明白ではないかも知れません。「真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。」イエスがこれほど約束してくださっているのに、聖霊を身近に感じられないかも知れません。

そこで、この一週間は「聖霊の続唱」を参考にして過ごしてはいかがでしょう。「聖霊来てください」という祈りから始まっていますが、聖霊は「真理であるイエスのことを悟らせる霊」なので、「聖霊来てください。イエス様は私の生活にどのように関わってくださるのか教えてください」こうした願いを込めて、聖霊の続唱を唱えたと、悟らせてくださると思います。

毎日の忙しさの中で、教会に通っている子供が、教会を通して学校とは違う成長を見せてくれるかも知れません。その時あなたは、聖霊を通して「真理であるイエスが私たちとどのように関わってくださるか」を知ることになるでしょう。

また、ある人は「イエス様は私に何をしてくださいますか？聖霊来て、私に教えてください」と尋ねたい人もいらっしゃるでしょう。中田神父はイエスが生活全般を配慮してくださっていると確信しています。イエス様が配慮してくださっているから今があるのだと気付いた時が、あなたにとっての聖霊降臨・聖霊体験なのです。

昔、「始業の祈り」というのがありました。「聖霊、来たり給え、信者の心に充ち給え。」今でも唱える人がいると思いますが、この祈りで聖霊の照らし導きを求める一週間とするのもよいでしょう。長崎教区を見渡すと、30以上の小教区がミサを中止しています。私たちが聖霊来てくださいと願いながらミサにあずかり、説教を聞いていることは、特別な意味を持っています。私たちのミサは、ミサを中止している小教区のためのミサでもあるからです。

「聖霊来てください。」この願いは、絶えず繰り返すと、いつか私自身を聖霊の神殿にするでしょう。聖霊がいつも私の中に住まいを見つけると、私はいつも主イエスと共にいることにもなります。中田神父にとって、今年「聖霊来てください」と願って与えられたまったく新しい気付きでした。

ともかく、この一週間で真理であるイエスについて何か気付きを頂くために、聖霊来てくださいと願いましょう。聖霊は、私たちが言葉で表せない部分を照らして、これまで私たちに対するイエスの配慮があったのだと気付かせてくださいます。「聖霊来てください」と、心から願う一週間といたしましょう。

三位一体の主日(マタイ 28:16-20)